

## 令和 7 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 19 日  
札幌市立手稲鉄北小学校

## 1 学校教育目標

- (1) 明朗で心身ともにたくましい子どもの育成 【つよい子ども】  
 (2) 喜びをもって進んで学習に励む子どもの育成 【はげむ子ども】  
 (3) 人や自然に思いやりをもつ子どもの育成 【やさしい子ども】

## 2 本年度の経営方針 &lt;子どもの視点&gt;

- (1) 自分を信頼し励ましてくれる先生がいる学校 (教師の愛情・魅力ある教師)  
 (2) 勉強が分かり楽しく学べる学校 (授業の改善・指導法の工夫)  
 (3) 親しい友達がいる学校 (学級の成熟・認め合う仲間)  
 (4) 自分の活躍できる場がある学校 (活動の充実・成就感や達成感)

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学力	【「繋げる×深める」=生かす子の育成】 子どもが考えを深めることができるようにするため、各教科における見方・考え方を働かせる手だてを工夫し、子どもに関わる。	A	教科の特性に応じた指導やICTを活用した授業づくりにより、児童の学びの深まりを実感できた。今後は、「各教科における見方・考え方を働かせる手立て」とは具体的にどのような指導や活動を指すのかをより明確にし、どのような交流を通して学びを一層深めていくのかについて検討していく。	A	A
学校関係者評価 委員による意見	・先進的な取組がよい。Chromebook の活用により、楽しみながら学ぶ姿が見られる。 ・自主学习について、テーマを与えるなど目標を意識して取り組めるよう働きかけるとよい。				
豊かな心	【互いの個性や多様性を認め合う心の育成】 子どもと一緒によりよい生き方について考え、共に友達との関係や関わり方を見つめ直す。	A	交流遠足や学習発表会などの行事や異学年交流を通して、互いによさを認め合う姿が見られた。今後も、児童が互いの個性や多様性を認め合えるよう、前向きな声掛けや適切な指導を心掛けていく。また、児童が変化を生み出した喜びや手応えとして実感できる自治的な活動を推進していく。	A	A
学校関係者評価 委員による意見	・他学年との交流や様々な教員との関わりがあってよい。地学協働等で学校外との関わりも深めていく。 ・自分を大切にでき、他人のために役立つことを嬉しく思う姿から、教育活動の成果を感じる。				
健やかな 身体	【自ら進んで運動に親しめる子の育成】 体力・運動能力向上を目指す取組を通して、子どもが運動する機会を活用し、運動する楽しさや達成感を実感できる。	A	「てつほくパーク」や「マット・とび箱週間」などの取組が、子どもの体を動かすことへの楽しさや達成感につながった。「てつほくパーク」などのイベントや体育の時間に体験・習得した「投げる・跳ぶ・転がす」などの基本的な動きを、日常の遊びの中でも生かせるよう、必要な道具の整備や環境づくりを重点的に進めていく。	A	A
学校関係者評価 委員による意見	・中休みの活動等の継続した取り組みにより、日常の遊び・運動にもつながり、健やかな身体づくりにつながっている。児童がさらに主体的に体を動かしていくように環境を整えていけるとよい。				
信頼される 学校	【安心・安全な学校づくり】 登下校の仕方、交通安全、避難訓練、SNS の危険性(情報モラル)などの日常的な指導を通して、子ども自らが適切に判断し、主体的に行動できる。	B	危機管理や行事運営においては、迅速で柔軟な対応ができた。今年度、オンラインゲームによるトラブルも多発したため、懇談会や出前授業などを活用し、情報モラルや SNS などの危険性を各家庭へ継続して発信していく。また、学活や道徳などの学習時間で継続的に情報モラルの指導を行っていく。	A	A
学校関係者評価 委員による意見	・オンラインゲームなどが友達と遊ぶツールになっているため、子ども自ら危機回避する力をつけていくように努める。保護者に向けても事例や予防策などを積極的に共有していく。				
いじめ対策	いじめ等の早期発見に努め、事案が起りそうな場合は、複数で情報を共有し、児童の困り感に合わせた対応を行うことができた。	B	ほとんどの児童が「教師が支援してくれている」と感じている一方で、「困ったときに誰かに相談できない」児童が一定数いる。児童が困ったときに誰かにすぐ相談できる環境を作っていくとともに、日常的な児童の「つぶやき」を大切にしている関わりを行っていく。	A	A
学校関係者評価 委員による意見	・全職員で取り組んでいる。子どもの困り感を察知できるよう日常の関わりを大切にして、寄り添い支援していくとともに、学校内で相談しにくいと感じている児童が相談しやすいような外部機関との連携が必要。				